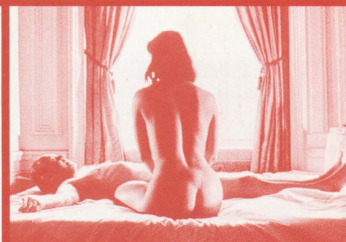
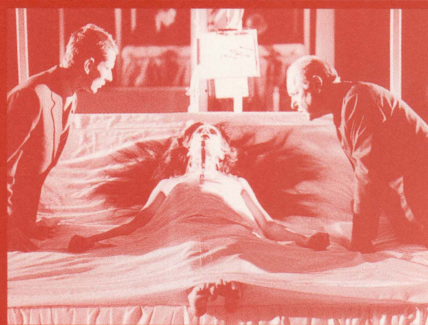
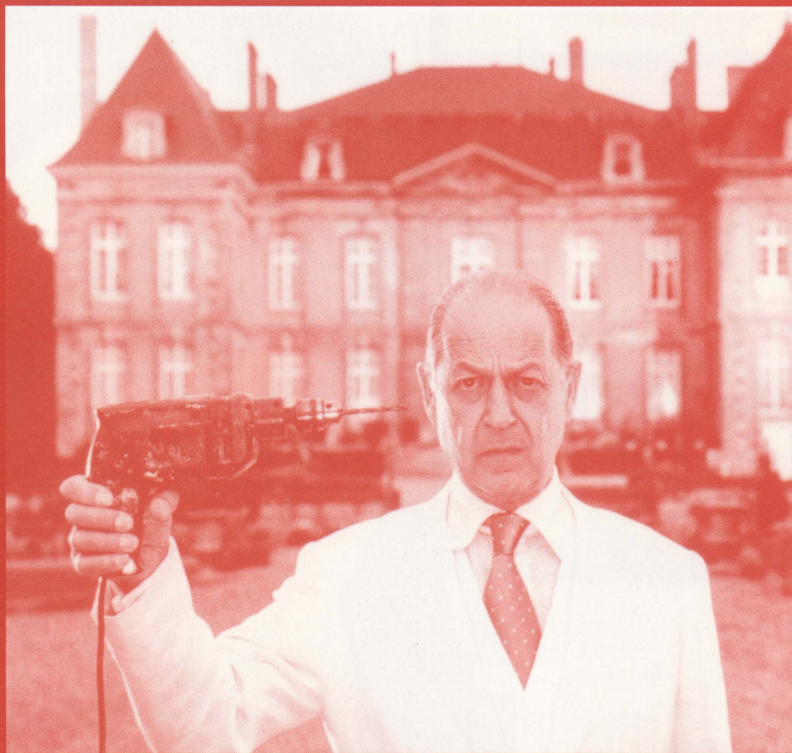


イギリス映画界の鬼才、ピーター・グリーンナウェイが今世紀最後に放つ最新作。



この作品は、1999年カンヌ国際映画祭のコンペティション部門に出品され、世界中のジャーナリストたちから性のモラルに対する賛否の声を巻き上げ、大きな話題をさらった。というのも『英国式庭園殺人事件』(82)、『コックと泥棒、その妻と愛人』(89)『プロスペローの本』(91)『ベイビー・オブ・マコン』(93)など、観客の知性と常識的なモラルを常に刺激し、センセーショナルな話題を提供しつづけるグリーンナウェイが新たに挑戦しているのは、性的搾取と消費というテーマであり、世界中にポルノグラフィが蔓延している現代文明を逆手にとり、20世紀の性のタブーを大らかに笑い飛ばしているからだ。そして湯水のごとく金を浪費して地上の楽園を作り出そうとする愚かな男達と、彼らを取り巻くあでやかだが奇怪な女達を世紀末的映像絵巻として絢爛豪華に描き出している。



ジュネーブの大銀行の頭取で金融会社も所有する大富豪フィリップ(ジョン・スタンディング)は、最愛の妻に先立たれ、絶望の淵にいた。一人息子のストリー(マシュー・デラメア)は、父を哀しみから救うため、自分たち専用の娼館をつくることを思いつく。怪しい素性の女たちを財力にものを言わせてからめ取り、こうして世界中から8人と1/2人(!)の女たちが集められた。馬と豚を偏愛するベリル(アマダ・プラマー)、出産愛好者のジアコンダ(ナターシャ・アマル)、尼僧姿のグリゼルダ(トニー・コレット)、自由奔放な女パルミラ(ポリー・ウォーカー)、主人の毒殺を企てるメイドのクロティルド(バーバラ・サラフィアン)、パチンコ狂のシマト(伊能静)、歌舞伎中毒の狂女ミオ(真野かりな)、娼婦たちの元締めキト(ヴァイヴィアン・ウー)、そして正体は良く分からないが小人で、1/2と呼ばれている謎の女ジュリエッタ(藤原マンナ)。いわくつきの過去と奇妙な性癖を持つ8と1/2人の女たちは皆、美しく、シュールで、ビザールな魅力を発散し、ジュネーブの城に一人一人あてがわれた部屋で主人に快樂を奉仕するのである。

次々と開く快樂の扉、

1999年イギリス・フランス・ドイツ・ベネルクス3国合作/1時間58分
ヴィスタサイズカラー

8と1/2の悪女たちが男を滅ぼす。

2001年1月20日(土)より待望のロードショー!!

連日 11:40 2:00 4:20 6:40

【2月9日(金)まで】

■当日/一般1800円、学生1500円、
高校1300円、
中・小・シニア1000円

シネ・ヌーヴォ
地下鉄中央線「九条駅」6番出口下車
大阪ドーム方向へ徒歩2分
TEL06-6582-1416

http://terra.zone.ne.jp/cinenouveau/



特別鑑賞券1500円好評発売中!!